

特定非営利活動法人 緑地雑草科学研究所 2023年3月発行

ニュースレター 9号

目次

お知らせ	1
活動報告	2
会員投稿記事	4
編集後記	5



春を告げるアブラナ科の雑草 (2023.3 茨城)



総会開催のお知らせ

令和5年度の総会につきましては昨年に引き続き書面表決にて実施いたしました。総会資料は会員の皆様のお手元にメールまたは郵送にてお送りしておりますので、昨年の事業報告や今年の活動計画についてご確認ください。さて、ここ最近では新型コロナウイルスによる活動制限も概ね緩和されるように

なってきました。今年はオンライン講演会などのこれまでの活動に加え、雑草インストラクターや雑草ウォッチャーの連携による新たな取り組みも計画しています。本年はより活発な情報発信に努めていければ、と思いますので、皆様のご参加、ご参画、よろしくお願いいたします。

事務局 佐治健介

ニュースレターバックナンバーの閲覧について

これまで四半期ごとに発行していたニュースレターも、今号の発行で9号目となりました。新たに入会された方や、配信メール削除してしまった

方などから、バックナンバー閲覧できないか、というご意見いただきましたので、当研究所サイトにバックナンバーを掲載いたしました。



当法人のウェブサイトの事業活動のページ [リンク](https://www.bousou-ken.org/action.html)掲載していますので、ぜひご覧
(<https://www.bousou-ken.org/action.html>) にリ

活動報告

新たな雑草インストラクターが認定されました

本法人が運営しています「雑草インストラクター養成事業」により 2022 年の養成講座（9 月 5 日～7 日、10 月 3 日～5 日の日程にて実施。ニュースレター8号活動報告参照）を受講し、所定の成績を収めた 6 名について、本年 2 月 8 日開催の理事会において、雑草インストラクターとして認定さ

れました。

この 6 名の認定を以って、雑草インストラクターの総数は 48 名となりました。今後は新たな研修等を通じて個々の専門性や連携を高め、活躍の場を増やしていく計画です。

認定者紹介

今回新たに認定された 6 名の、雑草インストラクターとしての抱負を紹介します。



浅井元朗

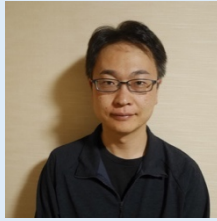
これまで通り、農業生産場面を主体に、雑草の診断、生態的特徴、管理手法の特徴と雑草の反応と増減、組成に及ぼす影響、管理の意思決定手順などについて、幅広く情報収集と助言を重ねつつ、それらの体系化を目指したい。活用にあたっては、すでに取得している関連資格（技術士（農業・植物保護）、植物医師）との関連・相違にも留意していきたい。また、雑草インストラクター認定者間の情報共有、資質向上、連携を支援できればと考えている。



勝真正美 大一工業株式会社

雑草インストラクター養成講座を受講し、得た知識や考え方をもとに、日本の未来を考えた適切な雑草防除策を提案できるような活動をしていきたいと思うようになりました。また事業でも、課題に対して 3DA を見極め、ステップを踏んで検証することで課題の本質を理解していきます。そのうえで解決策を出せるように活用できればと思います。自社商品についても Data Assemble を行うことで、また違った視点で新たな利点を見つけていく可能性を学びました。今回の講座で学んだこと、横の繋がりによって、視野が広がりました。様々な業種同士で手を取り合い、地域住民の緑地環境の改善に貢献できればと思います。

沓名知之 株式会社マキタ



草の刈取りや除草剤を散布する製品の製造販売している会社に所属しております。主な仕事は製品開発なので、直接現場で雑草問題について観察・調査・診断を行って雑草管理を指導することは少ないです。しかし、雑草問題についての知識を使い雑草管理に最適なツールの開発を進めていきます。今までの除草作業用の製品から雑草管理をコンセプトとした製品開発を進め行き、ユーザが雑草問題を解決していけるような製品を世の中に広められたら良いと思います。

田辺治和 有限会社田辺緑化



雑草インストラクターとして、とくに公園の雑草管理を追求していきたいと思っています。子供が公園で遊んだり、競技選手が公園に来ることで健康に害を与えることになっては、公園を利用していただく価値が減っていきます。そうならないために公園内外の雑草を観察し、有害雑草があればどのような被害があるのか調査し共有できるデータで考察し、また雑草インストラクターとコミュニケーションを交わすことで、より良い雑草管理を考え健康な公園づくりを目標に活動していきたいです。

鶴見武弘 株式会社理研グリーン



養成講座を受ける前の私は、良い商品をお客様に提供すれば喜んでいただければいいと思い営業活動をしておりましたが、DA3 プロセスを学んでからは、先に答えを出すのではなく Deta assembli Analysis Application『現状を把握し相手の要求を理解し解決すること』それにより Benefit『便益：使用后、購入後、変更後の満足度』が得られることを学びました。今回の養成講座で学んだことを自分の担当する営業先で DA3 を意識しながら仕事に活用したいと思います。また、本養成講座で学んだことを社内で報告するとともに機会があれば説明したいと思います。

牧野幸太 株式会社牧野造園



雑草インストラクターは、雑草科学に関わる職業人であると教わりました。そして、雑草科学は、雑草生物学(対象)、雑草管理学(目的)、雑草防除学(手段)の3つの技術原理で成り立っていることを学びました。今後は、公共緑地に区分される緑地のうち平均的な水準の管理慣行をされている場所を中心に雑草の診断を行い3つの技術原理に則り、何の為に雑草を管理するのかを明確にした計画書を作成します。また、雑草インストラクターの活用法については、雑草問題に対する共通の認識をお持ちの多様な職業・職位の方々との情報交換や施工後の経過観察の結果報告、それによる最良慣行の訂正・修正に役立てて行きたいと考えています。

会員投稿記事

所属団体紹介

大同商事株式会社 越智 和彦



生い立ち

弊社は、昭和31年4月初代林野庁長官（元）参議院議員三浦辰雄氏の提唱により林業関係者の有志が中心となり設立されました。設立当初は木材需要の拡大に対応し進められた国有林野業の体制の整備に協力し、林業関連の機材等を同事業に納入しました。その後、インドネシア・カリマン

タン開発が進められるにあたり、我が国の林業技術の協力が要望され、この技術体系を支える資材等の輸出を行なって参りました。昭和40年林業基本法の制定に伴い、林業経営の合理化、特に林業労働不足対策と合わせ重筋作業からの解放を目標に造林事業を中心に林業用薬剤の導入が進められることとなり、保土谷化学工業株式会社のご支援を受け林業用の除草剤を取り扱うこととなりました。

現在、これら林業用除草剤と合わせ、松食い虫予防のための樹幹注入剤・殺虫剤及び野生動物（カモシカ、ニホンジカ、ウサギ）などによる植栽木食害の防止を目的とした草食獣類用の忌避剤など数多くの林業用薬剤を取り扱っております。また、シカ対策用防護柵・森林案内標識板など各種林業用資材も取り扱っております。

弊社は、創立以来林業分野と絶えず密接な関連を持ちながら今日に至っておりますが、半世紀に及ぶ資材・農薬供給を通じ、技術ノウハウの蓄積も多く、今後ともこれらのソフトを活用し緑の環境整備、特に森林の健全な育成、利用などの分野で貢献できるよう努めております。

雑草への関わり

戦後（第2次大戦）荒廃した国土を造林という事業で木材生産に取り組み、これまでの薪と木炭生産用の山林（広葉樹林）から人工林（杉・檜林）建築用材へと変わっていく中で造林作業の中での労働者不足、重労働の原因になる下刈作業特にクズ処理が林業家の悩みのタネとなりその対策に関わって参りました。杉・檜への影響の出ない農薬の開発（選択性のある除草剤開発）そして散布事業と、林地での作業の邪魔なクズの防除作業が一段落し逆にクズより野生動物による被害が増加の中、林地では忌避剤・獣害対策ネットが中心となっていく中、一般の方からのクズの処理に関する相談が増加し現在の雑草処理（クズ処理）として林地での作業の経験から農耕地・耕作放棄地でのクズ処理指導の関わりから現在に至っております。



編集後記・募集

3月も後半となり、日に日に暖かくなっていくのを感じます。身の回りを見てみると、色々な雑草が芽を出し、ちらほらと花をつけているものも見かけ、今年もまた春が来たことを実感しています。

さて、去年の6号から新体制でのニュースレター発行となり、今号で無事1年間（4回分）の発行を行うことができました。ご投稿いただきました皆様のお力添えにお礼申し上げますと共に、次号以降についても会員の皆さまのご協力を頂きたく、下記のコーナーへのご投稿をお願いする次第です。

・テーマ“困っている雑草”について、意見や技術情報など

・自由投稿：日頃の気づき、主張したいこと、技術・文献紹介等

・所属団体・企業の紹介

コメント、質問、こういったテーマを扱って欲しい、等のご意見もお待ちしています。

ご連絡先：佐治健介 (k-saji@bousou-ken.org)

ページ編集：杉浦快（京都大学雑草学研究室院生）